条幅部自由参考

7月25日正午必着

明石春浦先生書

濯足萬里流（左思）

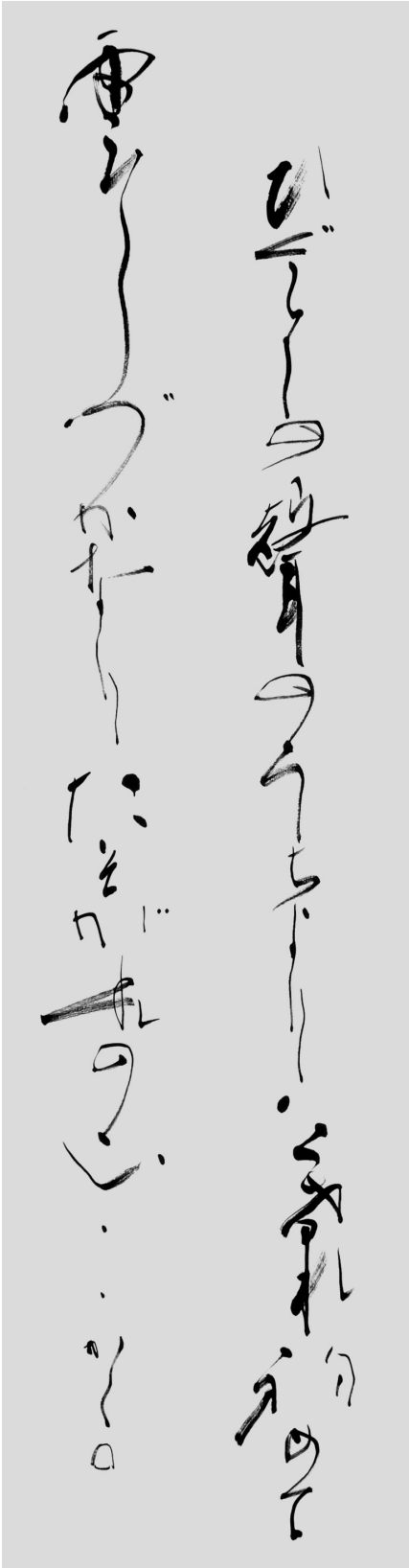
衣を千仞の岡に振うの對句で、心事の高潔なるをいう。

菅井松雲先生書

露浥葛巾晨氣潤　風隨竹簟晩涼生（張　樾）

頭巾に露がたまって明け方の空気が湿っている。竹で編んだ敷物に座っていると、夕方になって風が吹いて涼しくなる。

7月25日正午必着



明石幸子書

ひぐらしの　聲のうちより　暮れ初めて　雲しづかなり　たそがれの山（松平定信）

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

漁家帯二夕陽一（皇甫冉）

移レ舟泊二煙渚一　日暮客愁新
野曠天低レ樹　江清月近レ人（孟浩然）

漁家夕陽を帯ぶ　残雨も既に收まりたる後の漁村の夕景。

舟を移して煙渚に泊す　日暮れて客愁新たなり
野曠く天樹に低れ　江清くして月人に近し

旅にありては日暮れは物かなしきものであるが、況や船路のことなれば旅愁はひとしおである。

和二張侍郎酬二馬尚書一（韓愈）

來レ朝當レ路日　承レ詔改レ轅時
出領二須句國一　仍兼二少昊司一
暖風吹二宿麥一　清雨捲二歸旗一
賴寄二新珠玉一　長吟慰二我思一

張侍郎が馬尚書に酬ゆるに和す　韓愈

朝に来って　路に当る日　詔を承けて　轅を改むる時
出でて須句の国を領し　仍お少昊の司を兼ぬ
暖風　宿麥を吹き　清雨　帰旗を捲く
賴いに新たなる珠玉を寄せられ　長吟して　我が思いを慰む

栗の木の　花さく山の　雨雲を　わけくる人に　鳴くかよしきり　（長塚　節）

半紙部規定課題Ａ

7月25日正午必着

明石春浦先生書

※作品には必ず落款を入れてください。

※課題Ａ（楷書）と課題Ｂ（四体の中より一書体選択）の二点を出品のこと。

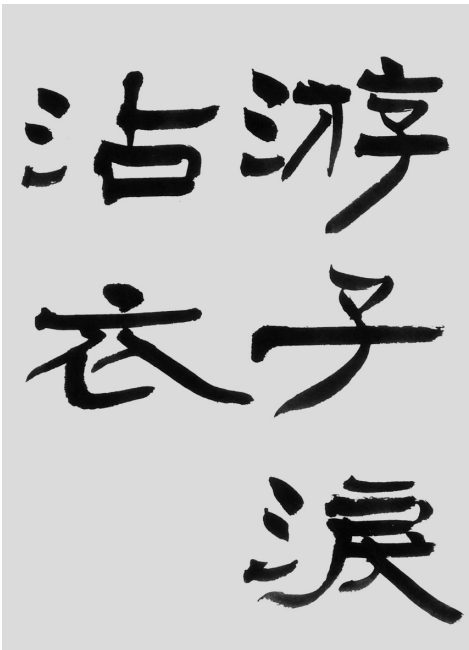
半紙部規定課題Ｂ

7月25日正午必着

行書

草書

隷書



行草書

明石春浦先生書

客中　于武陵

楚人歌二竹枝一
游子涙沾レ衣
異國久爲レ客
寒宵頻夢レ歸
一封書未レ返
千樹葉皆飛
南過二洞庭水一
更應二消息稀一

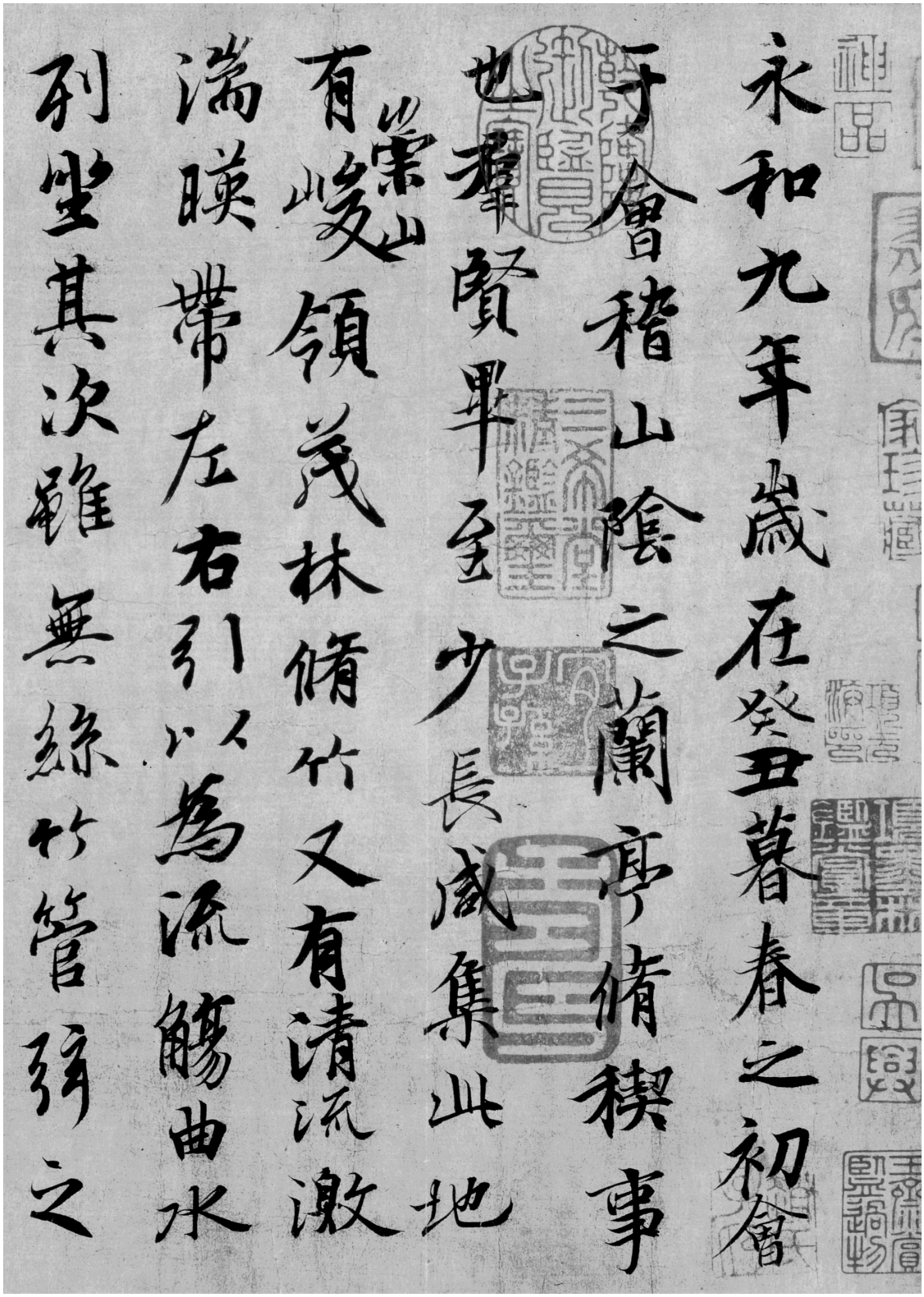
客中　于武陵

楚人　竹枝を歌い
遊子　涙　衣を沾す
異国　久しく客と為り
寒宵　頻りに帰るを夢む
一封の書　未だ返らざるに
千樹　葉皆な飛ぶ
南のかた洞庭の水を過ぐれば
更に応に消息稀なるべし

（出典）
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

ここ楚の地の人々が竹枝を歌うのをきけば　さすらいのこの身、涙はこぼれて衣をぬらす
異郷にながく旅寓し　寒い夜、しきりに故郷に帰る夢をみる
一通の手紙を送ったが、返事も来ないうちに　数知れぬ木々の葉はすっかり飛び散ってしまった
これより南へ向かい、洞庭湖を過ぎて行けば　故郷のたよりはいっそう稀になるにちがいない

条幅部半紙部臨書課題



永和九年、歲在癸丑、暮春之初、会于会稽山陰之蘭亭、修禊事也、群賢畢至、少長咸集、此地有崇山峻嶺、茂林修竹、又有清流激湍、暎帶左右、引以為流觴曲水、列坐其次、雖無絲竹管絃之（盛、）

永和九年、歳は癸丑に在り、暮春の初め、会稽山陰の蘭亭に会す、禊事を修むる也、群賢畢く至り、少長咸な集まる。此の地、崇山峻嶺、茂林修竹有り、又た清流激湍有りて、左右に暎帶す。引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。糸竹管弦の（盛）無しと雖も、

条幅部半紙部臨書参考

（会稽山陰の）蘭亭（に会す、）

永和九年、歳は癸丑に在り、暮春の初め、会稽山（陰の蘭亭に）会す、

王羲之・蘭亭序

永和九年（三五三）三月三日、王羲之（字は逸少、三〇七～三六五）が会稽山陰の蘭亭に四十二名の当地の名士や一族を招いて禊の礼を修め、曲水の宴を催した。曲水の宴とは思い思いに小川の岸辺に座し、上流から流された盃が自分の前に来るまでに詩を作るという遊びであるが、その時の詩集の序文として書かれたのがこの蘭亭序である。二十八行三百二十四字から成るこの序文は、ほろ酔い気分も手伝ってか、非常に見事な出来栄えで、後日何百回と浄書してもこれにおよばなかったと言われている。彼自身もこれを寵愛し、子々孫々まで伝えた。

三百年近く経過した唐の太宗の時代に、王羲之の七代の孫、僧・智永のもとにあった蘭亭序は、智永の他界によって、その弟子の弁才に至った。太宗は王羲之の書を酷愛しており、策をめぐらしてやっと蘭亭序を手に入れ、数多くの臨本や複製本を作らせた。原本は太宗崩御の際、遺言により共に埋葬され、この世から姿を消した。

王羲之の書は、行書や草書の草創期にありながら、すでにその典型を示し、千数百年もの間の濁汰をくぐり抜けて今日に至り、書の正統派として伝えられている。彼が「書聖」と称されるゆえんであろう。なかでも蘭亭序は逸品とされており、感性のままに書かれたその書は、線の曲直や太細、運筆の遅速や抑揚の配合が見事で、気脈の貫通と力の均衡の妙を得ている。図版は神龍半印本と呼ばれ、馮承素の手になるものと伝えられている。

（春濤）

7月25日正午必着

教育部毛筆

雨宮春聲先生書

象形文字（しょうけいもじ）　中学一年

菅井松雲先生書

海浜公園（かいひんこうえん）　中学二三年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

榎戸春龍先生書

七つの海　小学五年

横川春川先生書

野生の馬　小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

藤田幸春先生書

そ よ 風（かぜ）　小学三年

細谷春誠先生書

草（くさ）まくら　小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

明石幸子書

か　ご　　小学一年・幼年

森戸春濤書

川（かわ）せ　み　　小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

7月25日正午必着

教育部硬筆

海の美しい光景が
目の前にひろがる

海中には色とりどり
の小魚が泳いでいる

七夕は季節の変わり目
を祝う年中行事です

小学五年　小学六年　中　学

ペン字部

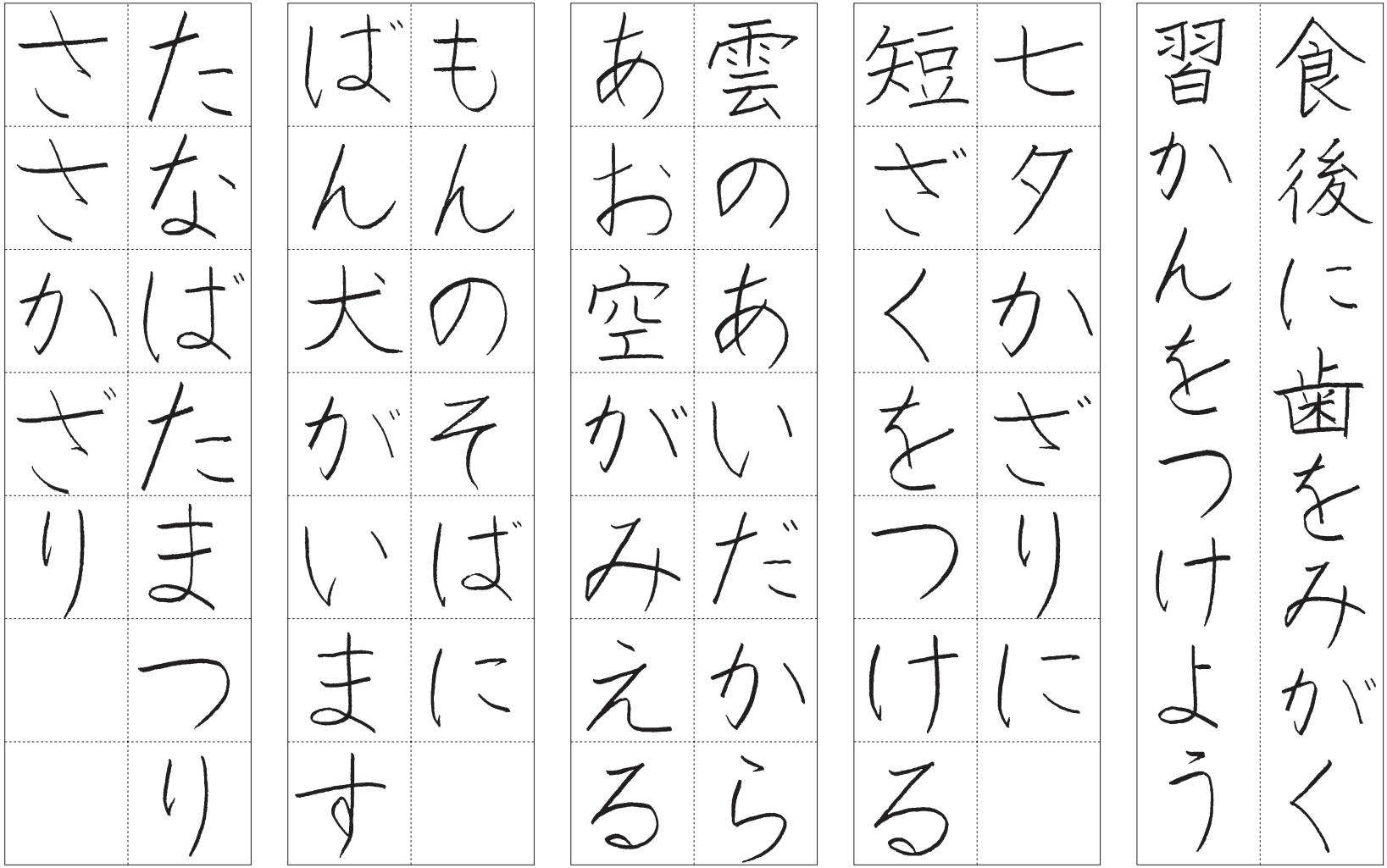
天窓から見えた流れ星
に、そっと願いをこめた

夕暮は いづれの雲の なごりぞと
花橘に 風の吹くらむ（藤原定家）

明石幸子書

一般（級位）　一般（段位）

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。



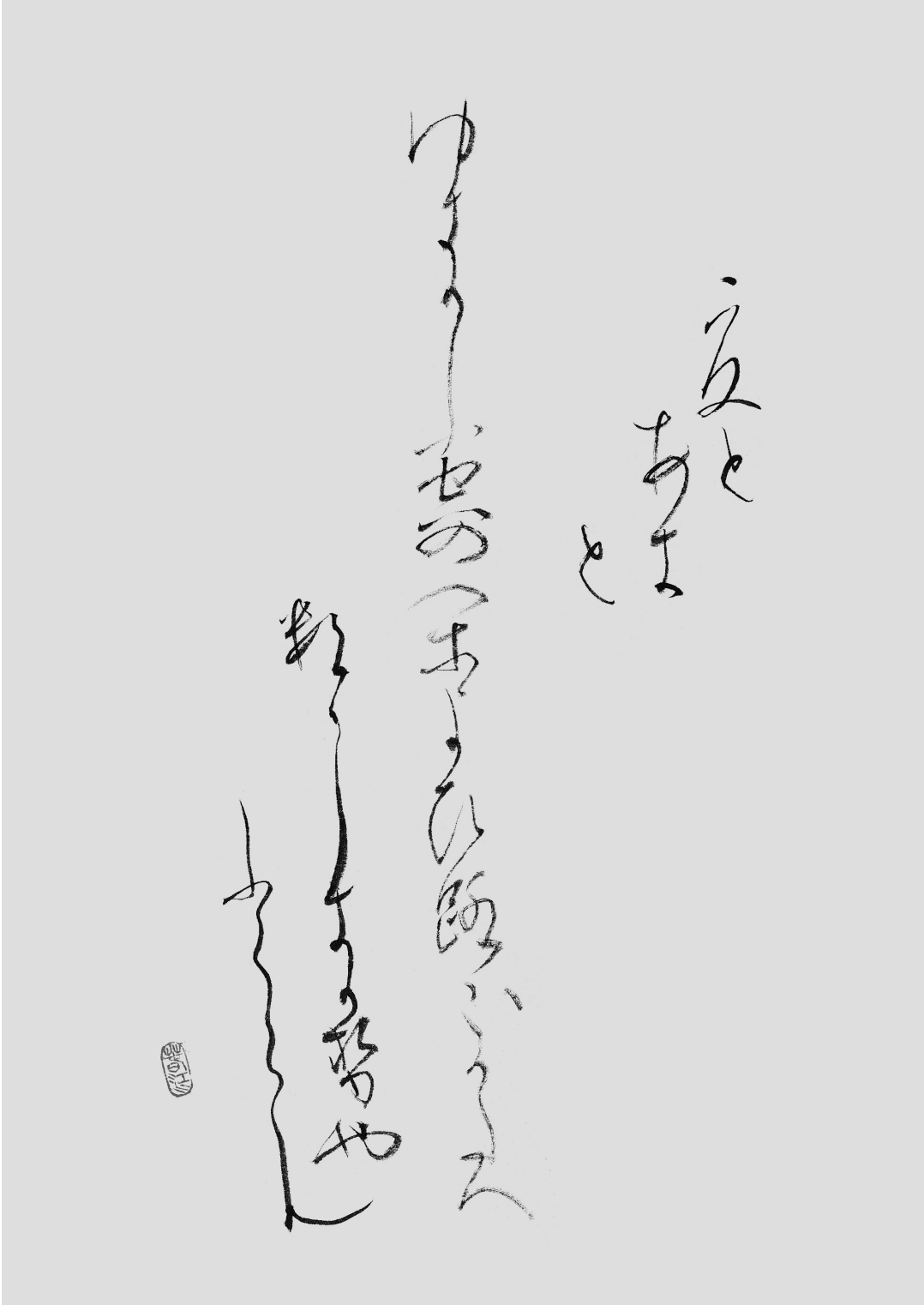
明石幸子書

幼　年　　小学一年　　小学二年　　小学三年　　小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆　中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。（ボールペン不可）
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

半紙部かな参考

7月25日正午必着



夏とあきと　ゆきかふ空の　かよひじは　かたへすずしき　かぜやふくらん
支　支可　閑　路八　可多　数　支　可勢

（古今集・凡河内躬恒（おほしこうちのみつね））

岩本景楓先生書